

【書式A】

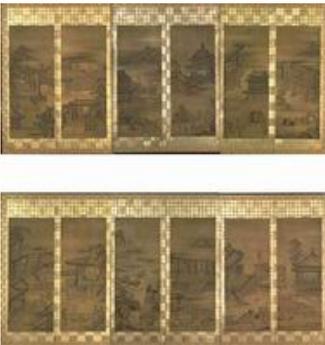
施設名 東京国立博物館処理番号 0101

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-1 適時・適切な収集
-----	----------------

事業概要	平常展の展示品と研究資料の充実を図るため、文化財を購入する。
------	--------------------------------

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷 豊信
-----	------	---------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品13件を購入した。 ・運営費交付金に加えて、寄付金2100万円を得ることができ、4億2,275万円を収蔵品購入にあてることができた。 <p>内訳：絵画 6 件 書跡 1 件 刀剣 1 件 陶磁 1 件 染織 2 件 考古 1 件 東洋考古 1 件</p> <p>決算額 4 億 2,275 万円</p>		<p>購入品 帝観図押絵貼屏風</p>
-------	--	---	---------------------

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・「帝鑑図押絵貼屏風」(絵画)は、狩野山楽による水墨画作品の基準作例として知られているもので、日本絵画史を研究するうえで重要な作品である。当館の絵画収蔵品の質をより一層高めるものであり、専門家の評価も高い。 ・「古筆手鑑 毫戦帖」(書跡)は、奈良時代から江戸時代まで、名物切れ多数を含む筆跡 207 枚を収めたもので、高い展示効果が期待される。 ・「パディ・イン・ヘルのみイラ包み布」(東洋考古)はわが国唯一のみイラ包み布であり、展示効果も高い。当館の古代エジプト美術には、彩色の図像と古代文字の銘文を兼備する大型の作品が欠けていたが、購入によりその欠を補うことができた。 ・寄付金の一部(2,100万円)による購入も行うことができた。寄付金による購入は、国の時代には、難しかったことであり、独立行政法人制度の特色を生かしたものである。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	収蔵品件数	112,439 件	—	—
	うち国宝	87 件	—	—
	うち重要文化財	619 件	—	—
	購入件数	13 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 京都国立博物館処理番号 0102

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-1 適時適切な収集
-----	---------------

事業概要	京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。
------	--

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治
-----	------	-----	-------	-------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民共有の貴重な財産として、また博物館活動の基本をなすものとして、永く後世に伝えられるべき優れた文化財 36 件を購入した。 <li style="padding-left: 20px;">内訳：絵画 7 件 書跡 1 件 陶磁 3 件 金工 1 件 漆工 5 件 染織 17 件 考古 2 件 <li style="padding-left: 20px;">決算額 2 億 2,866 万 5000 円 		<p>IHS 花入籠目文蒔絵螺鈿書見台</p>
-------	--	---	-------------------------

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<p>各分野にわたってバランスよく収集できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IHS 花入籠目文蒔絵螺鈿書見台は、当館の漆工の展示の核の一つである南蛮漆器の中で、欠けていた形式のもので、今後の展示の充実が期待できる。 ・ 染織は近世の服飾について、公家、武家、町方、遊里と、それぞれに異なる形式の作品を広く収集できた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	収蔵品件数	6,386 件	—	—
	うち国宝	27 件	—	—
	うち重要文化財	177 件	—	—
	購入件数	36 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目 1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名 (1)-1 適時・適切な収集

事業概要 収集方針に沿って、各分野にわたる優れた仏教美術品を中心に、年度単位で収集すべき文化財を調査選定し、外部有識者の意見を踏まえ、優先度の高いものから収集する。なお、国立博物館が保管すべきと考えられる、特に優れた文化財の収集も視野に入れる。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・購入 2件 内訳 書跡 1件 越中国射水郡鳴戸村墾田図＝麻布 一舗 絵画 1件 戒壇院厨子扉絵図像 一卷 <p>計2件の文化財を購入し、新たな館蔵品とした。</p> <p>決算額 1億1,500万円</p>	 <p>越中国射水郡鳴戸村墾田図</p>
		 <p>戒壇院厨子扉絵図像</p>

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・越中国射水郡鳴戸村墾田図は、かつて東大寺に伝来し、現在正倉院宝物となっている17点の東大寺開田地図と一連の遺品で、明治初年の皇室への献納以前に寺外に流出した。民間の所蔵に帰した奈良時代の麻布製荘園図は、本品以外に額田寺伽藍並条里図(現・国立歴史民俗博物館蔵、国宝)が知られるのみで、その資料的価値はきわめて高い。本品が館蔵品に加わったことは、仏教美術を専門とし、毎年正倉院展を開催する当館にとって、今後の調査研究、展示構成を行う上で重大な意義をもつ。 ・戒壇院厨子扉絵図像は、東大寺戒壇院にかつて安置され、今日では失われた厨子の扉絵を写した白描図像である。奈良時代最盛期の絵画の姿を伝える重要作品として以前から著名であったが、長らく個人の所蔵に帰し、公開される機会も皆無であった。今回館蔵品に加わったことで、この方面の調査研究の著しい進展と、当館が最も力を入れている南都の仏教美術に関する展示の一層の充実が期待できる。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	収蔵品件数	1,794件	—	—
	うち国宝	12件	—	—
	うち重要文化財	99件	—	—
	購入件数	2件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承			
事業名	(1)-1 適時・適切な収集			
事業概要	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品 42 件を購入した。 (うち重要文化財 2 件) <p>(内訳) 絵画 7 件 彫刻 1 件 書跡 2 件 陶磁 10 件 漆工 15 件 考古 4 件 金工 2 件 その他 1 件 (うち 20 件は日本および琉球、残りは中国・朝鮮・東南アジア、ガンダーラなど)</p> <p>決算額 9 億 6,519 万円</p>		 <p>(購入品) 重要文化財「亀甲地螺鈿鞍」</p>	
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・当館の収蔵品はきわめて少ないため、各分野で重要な作品の収集に努めた。その結果、重要文化財 2 件(金の年号を持つ銅鐘、亀甲地螺鈿鞍)および重要美術品 1 件(北条時宗書状)を新たに収蔵品に加えることができた。なかでも各地の彫刻・考古・染織などを含む東南アジア美術コレクション一括(350 件)は、わが国とアジア諸国との歴史的つながりを考える上で欠かせないものであり、また当館の当該分野における収蔵品の欠を補う上でも大きな意味を持つものである。 ・聖エウスタキオ広場図蒔絵プラークは、江戸時代に京都の工房で作られ、長崎を経由してヨーロッパへもたらされた輸出用漆器の優品であり、肖像蒔絵プラケットとあわせ、ヨーロッパ世界とわが国との関わりを示す重要な作品である。楽浪郡から出土したとみなされる彩漆耳杯は、きわめて保存がよく、今後の研究によって制作技法などの解明が進むことが期待される。 ・質の高い文化財を確保し、更なる収蔵品の充実を図る観点から、引き続き文化庁購入品の法人への長期貸与を要望したい。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	収蔵品件数	333 件	—	—
	うち国宝	3 件	—	—
	うち重要文化財	24 件	—	—
	購入件数	42 件	—	—
中期計画期間における進捗状況	中期目標に対し、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 0201

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れと活用
-----	----------------------

事業概要	平常展の展示と研究に必要な作品の寄贈あるいは新規寄託を受け、寄託の継続にも努力する。
------	--

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷 豊信
-----	------	---------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の寄贈は26件であった。 ・新規寄託は17件であった（内、重文1件）。 ・寄託取り下げは44件（内国宝1、件、重文6件）あり、寄託総数は2,743件（国宝53件、重文264件）となった。 ・登録美術品については、増減がなかった。 		<p>寄贈品 男神坐像</p>
-------	--	--	-----------------

定性的評価 （目標に対する成果の達成状況）	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。 ・個人収集家・社寺などに働きかけた結果、17件の新規寄託があり、平常展と研究の充実をはかることができた。一方、社寺の宝物館建設や、経済事情に伴うと推定される個人収集家の引き上げの動きは変わっておらず、19年度は44件の寄託品を所有者に返還した。また寄託品を購入したことによる減少や、九州国立博物館への移管による減少が1件ずつあり、寄託品の総数は減少した。目標は達成しているが、今後も寄託品の数と質を維持していくために、より一層所蔵者に寄託を働きかける必要がある。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	新規寄贈品件数	26件	—	—
	寄託品件数	2,743件	2,400件	A
	うち新規寄託品件数	17件	—	—
	登録美術品件数	3件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用
-----	--------------------

事業概要	平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。
------	----------------------

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治
-----	------	-----	-------	-------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・寄贈（新規） 30 件 ・寄託（新規） 117 件 ・新規寄贈品のうち、重要美術品 2 件を含む刀剣類 10 件の寄贈を受けたことは特筆される。 ・新規寄託品の受入について、前年度 104 件から増加し、展覧事業の充実につながった。 	
		寄贈品 鳥花山水図 陳箴筆

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・京都を中心に活動する古美術商思文閣の 70 年を記念しての寄贈など、当館を支えてこられた方々からの貴重な作品の寄贈があった。 ・重要美術品を含む数多くの貴重な刀剣の寄贈があり、収蔵品がより充実した。 ・新規の寄託品は 117 件に及び、特別展覧会「ヨーロッパ陶磁」展や「河鍋暁斎」展に関連する作品の寄託があり、展覧会の充実につながった。 ・国宝・聚光院障壁画の寄託は、寺院での保存が困難な状況であることから、複製を制作して、原本を博物館での保存公開としたもので、京都の寺院の文化財の保存と活用という当館の設立以来の活動が評価されたものである。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	新規寄贈品件数	30 件	—	—
	寄託品件数	6,154 件	6,000 件	A
	うち新規寄託品件数	117 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用
-----	--------------------

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈 仏教美術作品のうち、当館の収蔵品で不足している分野の資料の補充を図り、陳列に相応しい作品の寄贈を働きかけ、寄贈申し出に際しては、迅速かつ柔軟な対応に努める。 寄託 普段からの諸社寺との交流や、特別展を通して密接な関係を有する所蔵者に働きかけ、文化財の保存と公開の両立を図りつつ、新たな寄託品の受入に努める。
------	---

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈については、押出仏（一面）、縄文時代遺物等（一括）、計2件の受け入れを行った。寄託については、13件の返却に対し、113件（うち重要文化財4件。1件はのちに購入）を新規に受入れた。 また前年度に寄贈を受けた大型コレクションの全容を紹介する特別陳列「古玩逍遥—服部和彦氏寄贈仏教工芸展」を開催した。 	 <p>縄文時代遺物（寄贈）</p>  <p>涅槃図（寄託）</p>
-------	---	---

定性的評価 （目標に対する成果の達成状況）	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈については、服部和彦氏の大型コレクションの一括寄贈を受けた前年度に比べると量的には減少したものの、技法・図像面で稀少価値をもつ飛鳥～奈良時代の押出仏が館蔵品に加わるなど、質の高い内容を維持することができた。また先年購入した一括コレクションと一連の品であった縄文時代遺物等（54点一括）を受け入れたことは、同コレクションを散佚させることなく、当館においてその一体性を保持しえた点で意義深い。 特別陳列「古玩逍遥」を開催し、前年度に一括で受け入れた寄贈品の速やかな活用・公開を行った。個人コレクションの形成過程を紹介し、寄贈者の顕彰を行うことで、文化財所有者及び来館者に対し、文化財寄贈の意義を広く示すことができた。 新規寄託品は4件の重要文化財を含み、さらに1件が年度内に新指定を受けるなど、きわめて質の高い内容であった。鎌倉時代の大使殿様四天王像の新出資料で、鮮やかな彩色がのこる現光寺四天王像など、当館の展示活動の充実に多大な貢献をなす作品も多い。 東京大学東洋文化研究所から102件の貴重書の寄託を受け、当館書跡部門の手薄な分野であった漢籍・版本の収蔵品を、著しく充実させることができた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	新規寄贈品件数	2件	—	—
	寄託品件数	2,057件	1,960件	A
	うち新規寄託品件数	113件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 0204

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承			
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用			
事業概要	文化交流展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数350件を目標とする。			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治
実績・成果	<p>寄贈 10 件 (内訳 彫刻 2 件、建築 1 件、金工 1 件、刀剣 2 件、染織 1 件、考古 1 件、歴史資料 1 件、民族資料 1 件) 顕著な分野としては、紺糸威桶側二枚胴具足はじめとする刀剣・刀装具多数が挙げられる。そのほか、清朝官服に関わる染織品(文官五品補子)、刺繍冊架図(韓国アジア民族造形学会)など特色ある寄贈があった。</p> <p>新規寄託 214 件 (内訳 絵画 45 件、書跡 27 件、金工 1 件、刀剣 1 件、陶磁 106 件、漆工 3 件、染織 18 件、考古 5 件、歴史資料 7 件、民族資料 1 件) 漢代並行期(1-3 世紀)の灰釉陶から紹治年間(1841-1847)の染付におよぶ多種多様(白釉、青磁、勝釉、緑釉、鉄絵、三彩、五彩など)なベトナム陶磁多数の寄託を受けた。またわが国にはあまり紹介されていないベトナム螺鈿漆器についても寄託を受けることができ、ベトナム文化理解への具体的な手がかりが増えつつある。 重要美術品 1 件を含む高麗・朝鮮王朝仏画 8 件の寄託を受けた。 収蔵品にない高麗・朝鮮王朝仏画 8 件(重要美術品 1 件を含む)の寄託を受けることができたため、当該分野の展示を充実させることができた。 寄託中の東南アジア美術コレクション一括(350 件)などを購入することができたため、昨年度と比べて寄託品数が大きく減少した。</p>			
				(新規寄託品) 鎮墓獸(個人蔵)
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<p>(寄贈) ・甲冑を初め刀剣刀装具については、当館にほとんど収蔵作品がなかったため、その欠を埋めることができた。刀剣類については手入れが必要なものが多いため、計画的に手当をして順次陳列をする予定である。</p> <p>(寄託) ・漢代並行期から 19 世紀におよぶベトナム陶磁約 100 点によって、中国文化の周縁部に位置するベトナムにおける陶器からの影響を受けてきたベトナム陶磁の流れを理解しまた展示することができる。 ・大幅な高麗・朝鮮王朝時代の仏画多数の寄託を受け、これまで展示の機会の少なかった分野の展示が充実するとともに、研究が大きく進展するものと期待される。</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	寄贈品件数	10 件	—	—
	寄託品件数	1091 件	350 件	A
	うち新規寄託品件数	214 件	—	—
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存 (1/2)
-----	--------------------

事業概要	1) 後代に伝えるべき文化財を保管するため、セキュリティ機能と保存環境を完備した収蔵環境を整える。 2) 旧資料部関係品（歴史資料・和書）を整理し、列品に編入する作業を実施する。 3) 収蔵品の適正な管理・列品存在確認作業に役立てるため、新手法を開発する。
------	--

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷豊信
-----	------	---------	-------	----------

実績・成果	1) 昨年度改修した本館地下特8収蔵庫の環境を整備し、耐震強度が万全ではなく、保存環境も当館内では必ずしも上位にあるとは評価されていなかった東洋館収蔵庫から、展示中の作品を除く寄託品および絵画・書跡・陶磁・漆工・染織の主要収蔵品を特8収蔵庫に移動した。 2) 本年度も歴史資料と和書についての整理・登録作業を行ない、年度末に和書1,036件を列品に登録した。 3) ICタグ・バーコードなどを利用した収蔵品管理システム構築の研究を行ない、20年度に予定されている実証実験の準備を行った。
-------	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	1) 特8収蔵庫は、耐震・保存環境とも、現東洋館の収蔵庫より優れており、東洋館収蔵庫から特8収蔵庫への寄託品と主要列品の移動は、収蔵品保管の点で大きな改善といえる。 2) 歴史資料・和書の列品化という目標は、着実に実現している。 3) 人員削減が進められつつあるなか、収蔵品管理に機械力を導入して効率化を図ることは、文化財管理の万全を期するうえで不可避である。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	—	—	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存 (2/2)
-----	--------------------

事業概要	<p>4) 収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</p> <p>5) 保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。</p>
------	---

担当者	担当部課	文化財部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸
-----	------	-----------	-------	-------------

実績・成果	<p>4) 収蔵庫及び展示室など 347 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 33 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫など 475 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 展示場及び収蔵庫における地震対策として、特にガラス器や土器などの考古遺物の展示固定方法について検討を加え、転倒による破損を防ぎ、かつ外観を損なわない展示支持具の製作を行った。 他館への貸与に関し、展示・保存環境について東文研と協力して調査に当たった。 <p>5) 本格修理のための列品調査で 179 件、対症修理を実施する際に 822 件、列品貸与の際に作成する点検書として 683 件、合計 1,725 件の保存カルテを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫、展示室など 159 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラス I、II、要注意）した 18 年度年次報告書を作成した。 列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、海外 9 件（韓国中央博物館、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「受胎告知」など）、国内 4 件（奈良）の計 13 件の輸送を調査した。 	 <p>温湿度計のメンテナンス</p>
-------	--	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<p>4) 目標「収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う」に対して、6 建築物内部及び外気に関して温湿度と空気環境の調査、データの解析と必要な対処、データ蓄積を行い、十分に目標を達成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標である「収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る」に対して、全館的な生物生息調査の実施、効果的な防虫薬剤の設置などにより徹底した日常管理を行うことにより、生物被害は未然に防止され、目標を達成している。 目標「展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る」に対して、展示場の考古遺物の転倒防止対策を実施し、改善が図られていることから、目標は達成している。 <p>5) 目標「美術、工芸、考古、歴史資料及び民族資料の保存カルテを年 500 件程度作成する」については、列品を取り扱うあらゆる機会を利用してカルテ作成を行い、目標値を超える件数を実現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標「収蔵庫、展示室の温湿度など保存環境に関する年次報告を整備する」については、18 年度年次報告書を作成し、詳細に報告しているため目標を達成している。 目標「輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する」については、13 件の輸送を調査し、各輸送工程の問題点について詳細な検討を加えているため、十分に目標を達成している。 	 <p>本格修理における剥落止め</p>
--------------------------	--	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	保存カルテ作成件数	1,725 件	500 件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存
-----	--------------

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 ・特別展示館の耐震調査を実施し、地震対策を検討する。 ・収蔵品の保存カルテを作成する。
------	---

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治
-----	------	-----	-------	-------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・東収蔵庫の温湿度管理を徹底し、概ね温度 18～22℃、湿度 55～60%を安定維持できており、収蔵品について適切な管理・保存が行われている。 ・特別展示館の耐震調査を実施した。 ・収蔵品の保存カルテを年 140 件作成し、収蔵品の保存状況についての情報の蓄積が進んだ。
-------	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室、収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。 ・特別展示館については、近い将来発生が予想される花折断層地震へ対応すべく耐震診断を行った。診断の過程で追加調査が必要となったため、最終的な結果については 20 年 5 月末に得られる予定である。 ・収蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成することができ、館蔵品の保存状況をより把握できるようになった。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	保存カルテ作成件数	140 件	100 件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存
-----	--------------

事業概要	収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。
------	---

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 鈴木喜博
-----	------	------------	-------	---------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 重要文化財である仏教美術資料研究センターの耐震調査を実施。 館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に防虫トラップを定期的に設置し回収した。11月より始め、本年1月より定期的の実施し始めている。 トラップ回収にあたり、20年2月に当番制を定めた。 2週間毎に収蔵庫および周辺の清掃を研究員が実施することを定めた。 特別展開催中に展示室内および特定の展示ケース内の温湿度調査を実施し、展示環境の安定に努めた。 調査はデジタル計測器を主とし、毛髪計測器を従として計測の精度を増すようにした。 	 <p>防虫トラップ</p>
-------	--	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 規定の場所 150 箇所に予め設置した防虫トラップを回収し、あわせて同じ場所に新しい防虫トラップを設置し回収した。外部業者に防虫トラップの調査を委託し、データの蓄積を開始した。蓄積は数回に限らず、3年間継続して実施し、館内の状況を把握したいと考えている。 収蔵庫の清掃は必要に応じて行い、年末には必ず実施してきたが、19年度から始めた防虫トラップ調査と対応して、定期的な清掃を行う予定である。 特別展開催中、温湿度計測は毎日実施され、学芸課研究員が展示作品の状態確認とともに計測し、数値を記帳し、日々の変化に気付くように努めた。 デジタル計測では、一定時間毎の計測が可能なシステムを構築しており、手動によるデータ収集を通して、一日のデータをパソコン上で確認できる体制を敷いた。これによって、一日の展示環境の変化が分かるようにし、環境の安定に努めた。 データログの計測では今後無線ランを導入し、パソコン上での環境の変化が直ちにわかるシステム構築が必要であるが、まだ実験段階の状況にあり、一般化されていない。さらに検討していく必要がある。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	保存カルテ作成件数	103件	100件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 九州国立博物館

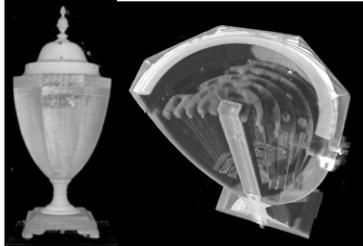
処理番号 0304

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存
-----	--------------

事業概要	<p>① I P M (総合的有害生物管理) 導入により、文化財の生物被害防止を図る。</p> <p>② 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。</p> <p>③ 博物館科学・保存修復諸室を円滑に運用し、文化財の積極的保存を図る。</p> <p>④ 収蔵品の保存カルテを年 200 件程度作成する。</p> <p>⑤ 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。</p>
------	---

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	環境保全室長 今津節生
-----	------	--------	-------	-------------

実績・成果	<p>①収蔵庫・展示室等 250 ヲ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、殺虫殺菌処理を実施した。ボランティア活動との連携により IPM 活動の普及に努めた</p> <p>②常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。</p> <p>③展示品を中心として、X 線 CT スキャナ装置や三次元計測装置を用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。</p> <p>④保存カルテ 文化交流展示室の露出展示資料や寄贈資料および修理資料を中心に 252 件を作成した。</p> <p>⑤収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質を調査して館内汚染物質の軽減を図り、収蔵環境の改善を行った。</p>	 <p>X 線 CT スキャナ装置による漆器の調査</p>
-------	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協同型 I P M 活動に関する科学研究費により、ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。 ・環境データを解析しながら外気の変化に合わせて微調整することで、極めて安定した展示環境を維持することができた。その結果 $\pm 1^{\circ}\text{C}$、$\pm 5\% \text{RH}$ の展示環境を達成した。 ・展示品・収蔵品を中心に X 線 CT 装置や三次元計測装置を実施した。研究成果として当館紀要に公表した。 ・収蔵庫環境は外気の変化に合わせて微調整することで、$\pm 1^{\circ}\text{C}$、$\pm 2\% \text{RH}$ の安定した保存環境を達成した。 ・開館 3 年目で展示・収蔵環境の安定化をほぼ達成した。今後は安定化を維持したままで、より一層の効率化をはかりながらエネルギーの削減に寄与したい。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	保存カルテ作成件数	252 件	200 件	A
	CT スキャン調査	35 件	—	—
	三次元計測	20 件	—	—
	殺虫殺菌処置	5 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 0401-1

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理 (1/2)
-----	------------------

事業概要	<p>修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する。 3) 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(100 件程度)
------	---

担当者	担当部課	保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸
-----	------	-------	-------	-------------

実績・成果	<ol style="list-style-type: none"> 1) 修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 179 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件について具体的な修理計画の策定を開始した。 2) 作品の応急(対症)修理を 897 件実施。本格修理を 101 件(内 84 件は完了、17 件は次年度継続)実施した。 3) データベース構築のために 18 年度本格修理 97 件(内 58 件は修理完了、内 39 件は修理継続)の修理内容についてデジタル化を実施した。18 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅷを刊行した。 	 <p style="text-align: center;">浮世絵の本紙に対する対症修理</p>
-------	---	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 目標「国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する」について、調査が完了した 79 件の指定品の中から、国宝 1 件について具体的な修理計画を策定した。また、約 2000 件の調査完了作品の中から修理計画の立案を実施しており、目標を達成している。 2) 目標「作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する」について、平常陳列、列品貸与、特別展などの機会に応急(対症)修理を積極的に実施して作品の劣化予防と安全確保を行い、かつ劣化が著しい作品については修理計画に従って本格修理を実施しており、目標を達成している。 3) 目標「保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る(100 件程度)」について、本格修理に関する修理記録の電子化を行なった。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	本格修理件数	101 件	70 件	A
	応急修理件数	897 件	—	—
	保存修復関係資料のデータベース化	97 件	100 件	B

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理 (2/2)
-----	------------------

事業概要	伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
------	------------------------------------

担当者	担当部課	保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸
-----	------	-------	-------	-------------

実績・成果	<p>1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 37 件実施し、本紙の保存に関して検討を行った。</p> <p>2) 修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は 24 件である。内訳は、X 線透過撮影は TJ-5641 漆塗鞘鉄剣、J-39135 東大寺山古墳鉄製品など 18 件（絵画 3 件、民族 3 件、東洋考古 2 件、考古 2 件、東洋彫刻 2 件、彫刻 1 件、漆工 1 件、その他 4 件）、蛍光 X 線分析及び赤外線撮影は K-39054 紙扇、H-4370 黒漆根古志形鏡掛など 6 件（絵画 1 件、漆工 2 件、その他 3 件）である。</p>	 <p>油彩画顔料の蛍光 X 線分析</p>
-------	--	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<p>1) 目標「紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる」については、特に浮世絵本紙の保存と敷き紙の変色の原因などについて検討を行い、マット取替えや本紙保存に役立てた。</p> <p>2) 目標「修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる」については、修理前に調査結果を確認しながらの仕様検討を行い、結果としての的確な修理仕様と修理処置がなされている。</p>
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承
-----	--

事業名	(3) 計画的な修理
-----	------------

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する ・文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る ・科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する
------	--

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治 保存修理指導室長 山本英男
-----	------	-----	-------	------------------------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中国絵画を中心に、計画的に修理し、未表装のものや大破のため公開困難であった作品の公開が可能になった。 ・従来展示の機会が少なく、破損したままであったヨーロッパ陶磁を、展覧会を機に修理し、今後の活用にそなえることができた。 ・文化財保存修理に関係する資料の保存活用のために資料のデータベース化を推進した。 ・紙本作品については、すべてにおいて繊維同定、紙質検査を実施し、補修紙の作製等、修理方針策定に役立てた。また、必要に応じてX線透過撮影を実施した。
-------	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国絵画を中心に15件の修理を行った。 ・文化財保存修理関係資料について、目標値を上回る件数のデータベース化ができた。 ・科学的な調査によって貴重な情報を得ることができ、より良い修理に結びつけることができた。このような調査は修理方針策定に重要であり、今後も継続して行って行く必要がある。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	収蔵品修理件数	15件	10件	A
	文化財保存修理所修復資料のデータベース化	2,377件	250件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承			
事業名	(3) 計画的な修理			
事業概要	展示に資するため、館蔵品の修理を実施する。			
担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 鈴木喜博
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国民共有の財産として長く後世へ伝えられるべき館蔵品のうち、10件を修理した。 内訳 彫刻1件 絵画2件 工芸1件 書跡2件 考古資料4件 ・本修理のうち古墳出土における馬具類（鉄製）については、錆による損傷が甚大であったため、X線透過撮影を行い、内部の保存状態を確認する作業を行った。また修理前の実測図の作成は保存上困難であったので、今回は修理中の新知見を加えた復元図面を修理後に作成し、展示等に活かすこととした。 			 <p>修理風景</p>
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画部門「絹本着色春日社寺曼荼羅」は折皺による損傷が進んでおり、良好な状態にある彩色も剥落する危険があったので、解体修理を実施し、毎年の春日信仰展で常時展示できるようにしたい。 ・彫刻部門「十一面観音像」は最近寄贈を受けた南北朝時代の小品であり、全面解体修理を実施し、後補部分は取り除き、展示可能となるようにする修理である。 ・工芸部門「多宝塔」は接合個所の緩みを緊結する修理である。 ・考古資料「二塚古墳出土品」のうちの鉄製品3件などを選び、劣化防止を中心とし、劣化防止対策を中心とした修理である。 ・書跡部門は最近購入した奈良時代の荘園図の保存箱を新調する修理である。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	修理件数	10件	4件	A
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 0404

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理
-----	------------

事業概要	<p>① 文化交流展示室に陳列するために必要な文化財のうち、緊急性の高いものについて修理する。(8件程度)</p> <p>② 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。</p> <p>③ 修理資料のデータベース化の調査を実施する。</p> <p>④ 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p> <p>⑤ 修理前あるいは修理中に、顕微鏡、デジタルスコープによる観察を行い、蛍光X線分析、X線回折、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>
------	--

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田 功夫
-----	------	--------	-------	--------------

実績・成果	<p>①修理 22 件 (絵画 3、書跡 1、彫刻 1、建築 1、刀剣 8、漆工 3、考古 2、歴史資料 3)</p> <p>②保存修復施設 1～3 は国宝修理装演師連盟が使用し、館所蔵品の他当館経費以外では国指定重要文化財を含む 5 件、施設 4 は(財)美術院が使用し九州沖縄地区の重要文化財含む木像彫刻 2 件の修理を実施。新たに整備した施設は、(株)芸匠が使用し国庫補助による重要文化財(考古資料)他 2 件の修理を開始した。</p> <p>③デジタル化した表具裂による仮想の取り合わせを進めるために、表具裂のデジタル化をさらに進めた。</p> <p>④⑤修理指針の検討のための調査について、絵画の彩色の蛍光 X 線分析や、生物被害等による劣化損傷状態調査を実施した。次年度以降の考古資料保存処理、修理に向けて X 線 CT スキャン及び精密三次元画像取込計測装置等による調査を開始した。</p>	 <p>ハンディ型蛍光 X 線分析装置を用いた彩色顔料の非破壊調査</p>
-------	--	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 保存修復諸室のうち、既設の 1～4 については、設備の整備をさらにすすめ、順調な修理事業をすすめることができた。 新たに、工芸資料のための保存修復施設 2 室の整備をすすめ、うち 1 室においては修理事業を開始することができた。残り 1 室についても年度内に調整整備が完了する予定であり、今後の修理事業への有効活用が期待される。 デジタル化した表具裂データを増やしたことで、より適切な裂の選定を的確に行うことができるようになった。 多様な絵画や古文書に対応できるよう、より多くの表具裂のデジタル化を行う必要がある。 地域の文化財関係者からの要請に応え、保存修復諸室を活用した実技指導研修を充実する必要がある。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	修理件数	22 件	8 件	A
	修復施設の活用 (補助事業等)	8 件	—	—
	科学的調査	10 件	—	—
	表具裂データ	11 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------